

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

【5.01】 【5.02】 【5.03】 【5.04】

推薦入試の明文化や奨学金の充実により優秀な学生や他大学からの受験者増をはかっている。これらの施策は今のところ外部からの受験者増には繋がっていない。一方、奨学金や教学補佐への採用などの経済的支援策は、内部からの進学者確保に一定の効果を発揮していると考えられる。学費の半額相当額を支給するベーツ第1種支給奨学金に2007年度の場合、博士課程前期課程および後期課程合わせて81名が出願し、28名が採用となった。また、教学補佐への希望者もほぼ全員が採用されている。

2007年度の傾向として、就職状況がよく学部生が大手企業に比較的容易に採用されたため、大学院への進学率に若干の減少がみられた（2004-2006年度57.5%、2007年度55.6%）。

【5.0.11】

定員充足率は、博士課程後期課程では定員割れが続いているが、博士課程前期課程全体ではほぼ定員通りであった2007年度に引き続いて、2008年度においても100.8%（定員123名に対して在籍者124名）と維持している。引き続き後期課程の学生確保に向けたいっそうの努力が必要である。外国人学生は2007年度前期課程3名（秋学期から）後期課程3名（内秋学期から1名）、2008年度後期課程2名、社会人学生は後期課程に2007年度1名、2008年度3名を受け入れており、人数は少ないが定常的に推移している。

学内第三者評価

前期課程の学生は学科の定員変更などを受けて堅調に推移しているが、認証評価で強く指摘されている後期課程学生の確保が十分でない点については課題として残されている。

「飛び入学制度」について、引き続き、制度の有効性を含めて自己点検・評価を行っていくことが望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。

博士課程後期課程の学生確保に向けた取り組みの継続的な実施、および、その成果確認、改善策の検討が求められる。